

「男女共同参画の視点に立った地域の課題解決」のためのプログラムデザイン

【事業名】 女性のための護身術講座 意識改革と暴力予防

【趣旨】

防犯対策は日頃からの備えが必要だけれども、どのようにしたらよいのか。

課題

いざという時に役立つ実践的な護身術やもしものケガに対しての処置方など実際に体験しながら学ぶ講座

目的

男女共同と言ってもやはり力の差があり被害に会う確率は女性割合が多い。そんな女性に対して、自分はもちろん人を守る護身術を身につける。

対象

全女性対象20名～30名

連携先

男女共同参画推進センター

目標

基点・基軸の形成

課題解決

振り返り

男女共同参画推進意識の形成

現状把握

課題把握・課題共有

課題解決の方策の検討

課題解決のための行動

内容

【意識の向上】
DV被害者の多くは女性であり、女性に対する暴力の背景には、男女の社会的地位や、固定的な性別役割分担意識など社会的・構造的な問題があることを理解を深め、大村市での現状を学び、男女共同参画の視点や考え方が必要であることを理解する。

【被害の状況や内容】
被害にあったその後のケアが必要などの事案をあげて学ぶ。
生活に影響がでるなど、複合的な問題を抱えてしまうことで孤独感を感じ、引きこもってしまうなど悪循環を打開するには、一人では解決しようと思わず、センターの存在や利用できる機関があること。寄り添った支援ができることを学ぶ。

【グループワーク①】
実際の現状を想定した形式で体験してもらう。
当事者となった時にどのように回避したらよいのか、また、被害にあわない、状況を作らせない方法など、実践方式で学ぶ。
実践にて学ぶことで、万が一に被害にあう状況にあっても叱咤の判断ができ、行動に移すことができるようになり、自身の周りが被害にあったとしても回避する方法を習得することができる。
力では対応できない場合を想定して、護身用具の種類や使用方法も実践方式で学ぶ。

【グループワーク②】
知識の向上と実体験を行うことで、被害者にならない！増やさない！ことをどのように感じたか。これから、どのような対策をとって行けばよいかを意見交換してもらう。

今回、受けた研修をどのように発信していくか。次回の講演を開催するとしたら、追加する内容があるか。

方法

講義・説明

グループワーク